

事例－1

<意見交換テーマ：相談支援専門員から>

先天的な障害があり、これまで長年にわたり障害福祉サービスを利用していた方が、まもなく65歳を迎える。
どのタイミングでどこに相談し、引継ぎが必要な場合どのように引き継ぐのが適切なのだろうか？

<ケース概要>

- ・ひとり暮らし、身体障害者手帳2級。口頭での意思疎通可能だが、日常生活動作の多くの場面で支援が必要。
- ・相談支援専門員が作成するサービス等利用計画をもとに、障害福祉サービスでは、身体介護、家事援助、通院等介助、生活介護を利用してきた。
- ・本人から「65歳になると、原則として介護保険が優先だと聞いた。今後、自分の生活はどのようになるのか」と不安の声が聞かれている。
- ・本人は、在宅でのひとり暮らし継続を希望している。また、通所先の生活介護事業所での仲間との関係性を大切にしていることから、通所継続の意向も強い。生活介護事業所からは、受け入れ◎と言われている。

<MEMO>

事例－2

<意見交換テーマ：地域包括から>

認知症はないが、子ども達のことを心配している本人（父）と母親、重度知的障害を持つ息子達。

ケアマネと障害が協働するとしたら、どのタイミングでどこに相談するのが適切だっただろうか？

<ケース概要>

73歳要介護2の父、63歳未認定の母。35歳引きこもり糖尿病を患う長男、30歳知的障害の次男の四人暮らし。EVなし集合住宅の三階に居住。（分譲マンション）

- ・引きこもりで糖尿病を患う長男35歳。次男は日中B障害デイサービス利用しているとのこと。
- ・知的障害を持つ次男が壁をドンドン叩くため、近隣住民からは苦情が殺到している。その際、障害分野の方々が集まり対応会議を開いたことがあると聞いた事があった。
- ・ケアマネが訪問時に、本人達は子ども達の相談がメインであったことからケアマネも困ってしまい

地域包括へ相談する。

<MEMO>